

◆標準施工仕様

●平滑仕上げ:PC、RC面の塗装、窯業系サイディングボードの新設・塗り替え^{注1}など

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間 ^{※1}	
					工程内	工程間
1 下地調整	PC、RC サイディング	●躯体の不陸、段差、巣穴等は前もって補修して下さい。 ●ゴミ、油等の付着物は除去し、水分10% (pH10以下)に管理して下さい。 ●劣化した既存塗膜は、電動工具、手工具を用いてケレン除去して下さい。 ●既存塗膜の活膜部については、チョーキング、塩類等の付着物を高圧洗浄やサンドペーパー掛け等の方法で除去・清掃して下さい。				
2 下塗り	ダイヤワイドシーラー (無希釈)		15kg 0.10~0.15kg/m ² 100~150m ² /缶	1	—	2時間以上
3 上塗り	ダイヤスーパーセラミック クリア	A液 B液	15kg 1kg 0~1.6リットル	2	2時間以上	—

^{注1}既存塗膜が溶剤系アクリルシリコン樹脂塗料やフッ素樹脂塗料の場合はダイヤセラミックプライマー-S、ダイヤメンテプライマー-TNを使用して下さい。

●既存塗膜の塗り替え

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間 ^{※1}	
					工程内	工程間
1 下地調整		●劣化した既存塗膜は、電動工具、手工具を用いてケレン除去して下さい。 ●ゴミ、油等の付着物は除去し、水分10% (pH10以下)に管理して下さい。				
2 下塗り	ダイヤアクリルエポ クリア	※ 中毛ローラー 多孔質ローラー	16kg 0.8~1.6リットル 0.4~0.8リットル	1	—	5時間以上 16時間以上
3 上塗り	ダイヤスーパーセラミック クリア	A液 B液	15kg 1kg 0~1.6リットル	2	2時間以上	—

※ダイヤアクリルエポの代わりにダイヤアクリルフィラーもご使用いただけます。

◆品種・包装単位

	製品名	用途	包装単位
下塗り	ダイヤワイドシーラー	一般建築・無機建材および塗り替え用シーラー	水系 15kg
	ダイヤアクリルエポ	硬質仕上塗材の塗り替え用下塗り	水系 16kg
上塗り	ダイヤスーパーセラミック クリア	有機ハイブリッド形無機塗料	水系 16kg セット A液: 15kg B液: 1kg

【可使時間】

気温	可使時間
5~15℃	8時間以内
15~25℃	5時間以内
25~35℃	3時間以内

【工程間隔】

気温	工程内塗装間隔
5~15℃	4時間~7日
15~25℃	2時間~5日
25~35℃	2時間~5日

【用

- 一般外壁の美装と保護
- 複層仕上塗材(硬質)の上塗り

施工・保管上の注意点

- 【塗装面の調整(新設)】
- ①素地に付着している塵、汚れ、油類、レタキ等を完全に除去して下さい。
 - ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下 (pH10以下)になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
 - ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
 - ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
 - 1)豆板、木コン、破損箇所、不陸などは、セメントフィラー、セメントジャス#2000、セメントジャス#2500、リマモル#70等の下地調整材を使用し、補修し平滑にしてください。
 - 2)表面が緻密(レタキ)な層がある場合は、レタキを除去し、ダイヤコンシーラー又は、ダイヤシーラーエポをご使用して下さい。
 - ⑤ALCパネルの場合はダイヤカチオンフィラーを塗布して下さい。
- 【塗装面の調整(改修)】
- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
 - ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
 - ③各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理(ケレン、清掃、高圧水洗浄)などを行って下さい。
 - ④塗膜層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
 - ⑤チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
- 【材料の保管・管理】
- ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
 - ②材料の保管は凍結や湿度上昇による変質を防ぐため、気温5~35℃で、密封のままで直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
 - ③B液は湿気化性のため、使用後は必ず密閉し、水分が混入しないように保管して下さい。
 - ④B液は危険物ですので、火気や換気は十分注意して保管して下さい。
- 【施工】
- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度95%以上の場合は、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は(雨)発生を避けて下さい。
 - ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 - ③材料は付着乾燥しすぎると取れませんが、完全に養生をして下さい。塗面周辺部の養生を完全に行わない、施工時塗料の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗り後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと壁が傷みやすくなります。
 - ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
 - ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
 - ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
 - ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因となります。
 - ⑧施工後24時間以内に降雨、積露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
 - ⑨本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりムラにならないよう確認して下さい。
 - ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。攪拌しすぎると仕上りしないことがあります。特に薄塗や下地の吸い込みが異なる場合は希釈量を少なくして下さい。
 - ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
 - ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
 - ⑬一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
 - ⑭塗装下地の劣化によって、塗布量が変わる場合があります。
 - ⑮フッ素系無機系などの接着剤塗布がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄りの営業所へご相談下さい。

- ⑯可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
 - ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置すると硬化して洗浄することが難しくなります。
 - ⑱乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
 - ⑲⑳色や色合いに違いの色相、塗こすると色が取れる場合があります。
 - ㉑下地の吸込みムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
 - ㉒シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。
 - ㉓上塗材を施工する場合は、下塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
 - ㉔既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗浄後にダイヤコンシーラーまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
 - ㉕B液は水系のA液となじみにくいので、必ず電動攪拌機等により混合して下さい。手動で軽く攪拌しただけでは硬化不良となり、艶が発現しない場合がありますので注意して下さい。
 - ㉖小出し調合する場合は、混合比のずれが生じないよう、必ず台秤・上皿電子天秤等を用い、重量比の配合割合は厳守して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 - ㉗施工後、塗膜が乾燥するまでに、露雨などにより水分の影響を受ける状態が継続された場合、低汚染機能が発現しないことがあります。乾燥までに降雨や積雪、結露が予想される場合は施工を避けて下さい。
 - ㉘予想外の降雨などが発生した場合は、シート養生などを行い塗膜が濡れないよう対策を講じて下さい。
 - ㉙施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。雨排りでない部位や斜壁、水切りが不十分な面や窓まわり及びその下側面などは、低汚染機能が発現しないことがあります。
 - ㉚シーリング材などに含まれる可塑剤、揮発油類、サビなどが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。
 - ㉛上塗り塗布量を厳守し均一に施工して下さい。塗布量が少ない場合は低汚染機能が十分に発揮されません。
 - ㉜塗布面の吸い込みが大きい場合は、下塗りなどにより吸い込みを少なくし、上塗りが塗布面に吸い込まないようにして下さい。表面に上塗材が十分に確保されていないと耐候性、低汚染機能が発揮されません。
 - ㉝A液とB液の混合比率が不適切であったり、B液を調合していなかった場合は、低汚染機能が発現しません。
 - ㉞タッチアップを使用する場合も、上塗りのA液、B液の量を良く振り、沈降分離していないものを指定の割合で計量し、電動攪拌機を用い同様に混合して使用して下さい。
 - ㉟A液とB液の混合後は可使時間以内に使用して下さい。可使時間を超過して使用した場合、作業性や仕上り、汚染機能が劣化する場合があります。
- 【安全衛生上の注意】
- ①取扱いは、できるだけ皮膚に接触しないよう、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
 - ②取扱後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
 - ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
 - ④作業中・作業後は十分換気を行ってください。
 - ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
 - ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 - ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 - ⑧皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
 - ⑨臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 【その他】
- ①その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
 - ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意事項については仕様書等をご確認下さい。
 - ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意事項については安全データシート(SDS)をご確認下さい。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/>にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

(24.10月現在) 24.10.500 SJ

水系超耐候・超低汚染型変性無機塗料

F☆☆☆☆

ダイヤスーパーセラミッククリア

無機と有機のハイブリッド効果

業界初!

ダイヤスーパーセラミックの
反応技術を継承した
水系無機塗料登場!

環境保全

難燃性

高光沢

超耐候性

高硬度

超低汚染性

フレキシブル性

水系塗料は新たなるステージへ。

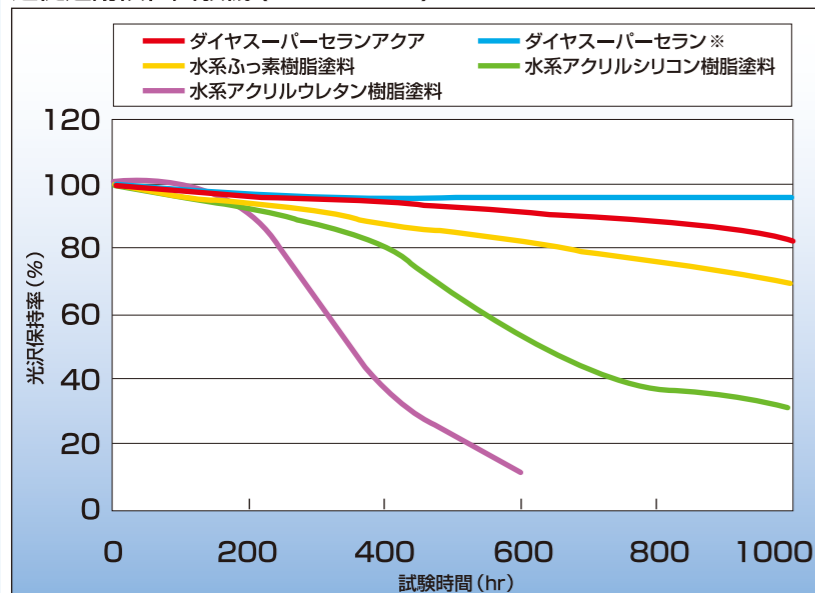
水系超耐候・超低汚染型変性無機塗料

ダイヤスーパーセラック

超耐候性

ふっ素樹脂塗料を凌ぐ超耐久性塗膜が、大切な資産をいつまでも美しく彩り続ける。また、それはライフサイクルコストの削減へとつながる人と環境に優しい超耐候性水系無機塗料。

メタルハライドランプ式
超促進耐候性試験機(スーパーUV)



Si成分(オルガノポリシロキサン)が塗膜全体に均一に分布し、高密度の無機塗膜を形成します。

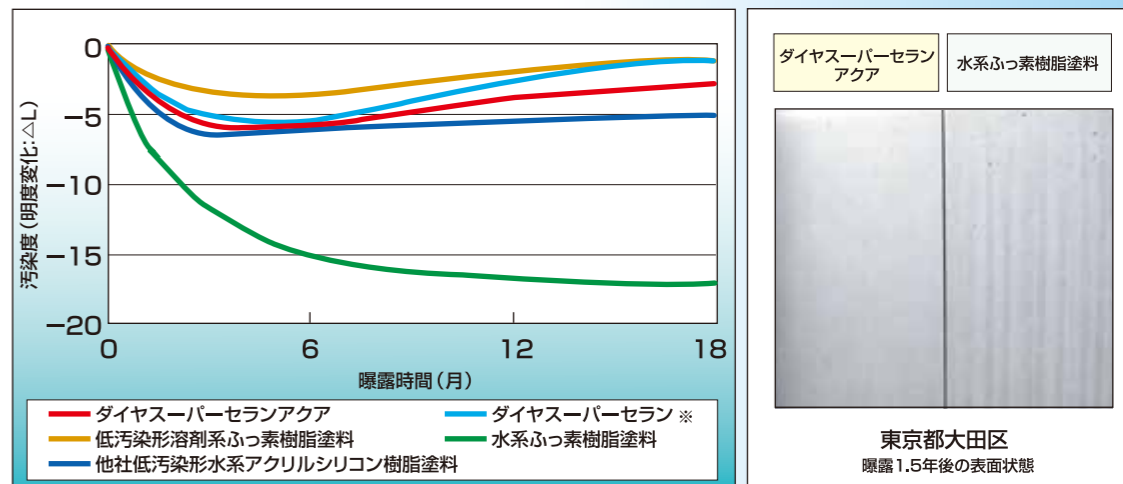
水系ふっ素樹脂塗料が15~20年で劣化が始まるのに対し、ダイヤスーパーセラックは25年~30年経過しても光沢保持率80%以上を維持する超耐候性塗料です。

※環境配慮型に移行のため2023年に廃止

超低汚染性

強靱で緻密な塗膜が汚れを防ぐ。無機成分が汚染に対する抵抗力を高め、水系塗料における最高水準の低汚染化を実現。

耐汚染性試験(都内曝露試験)



ダイヤスーパーセラックは、塗装後3ヶ月までは多少汚染します。しかし、完全な塗膜を形成する6ヶ月後から汚れが落ち始め、1.5年後には殆ど汚れが目立たない程度にまで回復します。一旦汚れが落ちると耐汚染性は長期間持続します。

※環境配慮型に移行のため2023年に廃止

相対比較

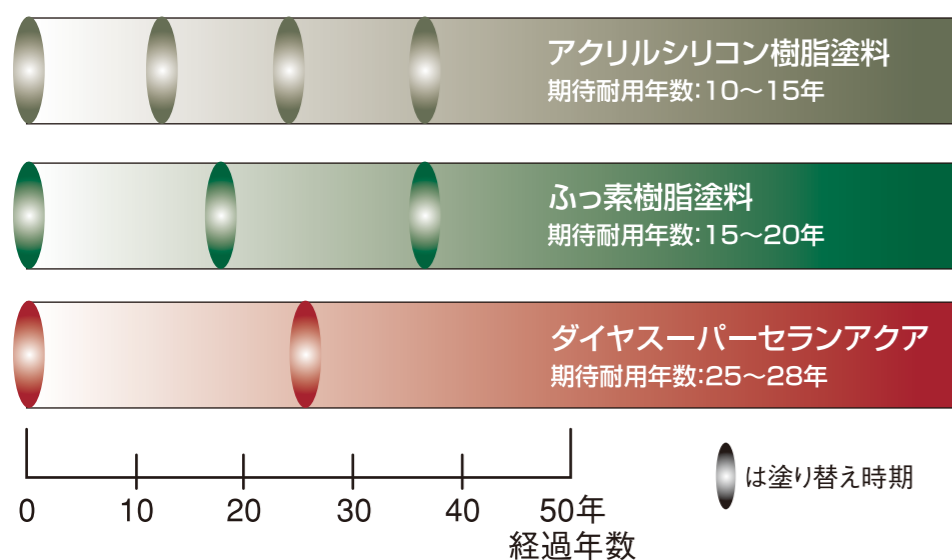
卓越した塗膜硬度と艶。水系塗料の限界を飛躍的に向上させた塗膜性能は、環境への負荷軽減とともに新たなるステージへ。

	溶剤系塗料		スーパーセラック	水系塗料	
	スーパーセラック※	低汚染型ふっ素塗料		ふっ素塗料	低汚染型アクリルシリコン塗料
60度鏡面光沢度	88	90	90	78	83
温冷繰り返し性(微弾性フィルター下地)	○	○	○	○	○
耐アルカリ性	○	○	○	○	○
耐屈曲性	○	○	○	○	○
塗り重ね性	◎	×	◎	△~×	◎
促進耐候性(スーパーUV)(1000時間後の光沢保持率)	96	74	83	70	32
耐汚染性(1.5年曝露後のΔL値)	-1.3	-1.2	-2.8	-17.1	-5.2
塗膜硬度(鉛筆引っ掻き硬度/最終硬度)	6H	H	3H	B	B
耐用年数	25~30年	15~20年	25~28年	13~15年	11~13年
ライフサイクルコスト	◎	○	◎	△~○	△~○

※環境配慮型に移行のため2023年に廃止

水系塗料であるため、既存塗膜を侵す事もなく塗装できますので、安心してお使い頂けます。また、塗膜性能に優れているだけでなく、超低汚染形塗料では困難とされてきた塗り重ね性(短期)も問題ありません。

ライフサイクルコストの比較



高耐久性塗料として位置付けられるアクリルシリコン樹脂塗料やふっ素樹脂塗料の場合、約50年間で2~3回の塗り替えが必要であるのに対し、ダイヤスーパーセラックは1回の塗り替えで済むため、ライフサイクルコストの削減につながり、環境への負荷低減にも貢献します。

●建物の寿命を50年とした場合
●期待耐用年数は標準的な耐用年数。
(ダイヤスーパーセラックについては当社の技術見解)
※塗り替え周期はあくまで目安であり、建物の立地条件や形状によって異なります。